

誰もが適切な支援を受けられるために

～児童発達支援管理責任者の役割とは～

よこはま港南地域療育センター
地域支援課長 神田 由美

障害があるお子さんの子育て・支援

—— 障害があるお子さんの子育ては、不適切養育のリスクが高いといわれています。

「虐待なんて、するわけがない」「うちの施設ではありえない」

誰もが意図せず虐待の加害者になるリスクがあります

なぜなら、私たちは「子どもの成長を願う専門職」だから

そして、子どもたちは、障害ゆえの意思疎通の困難性を持っているから

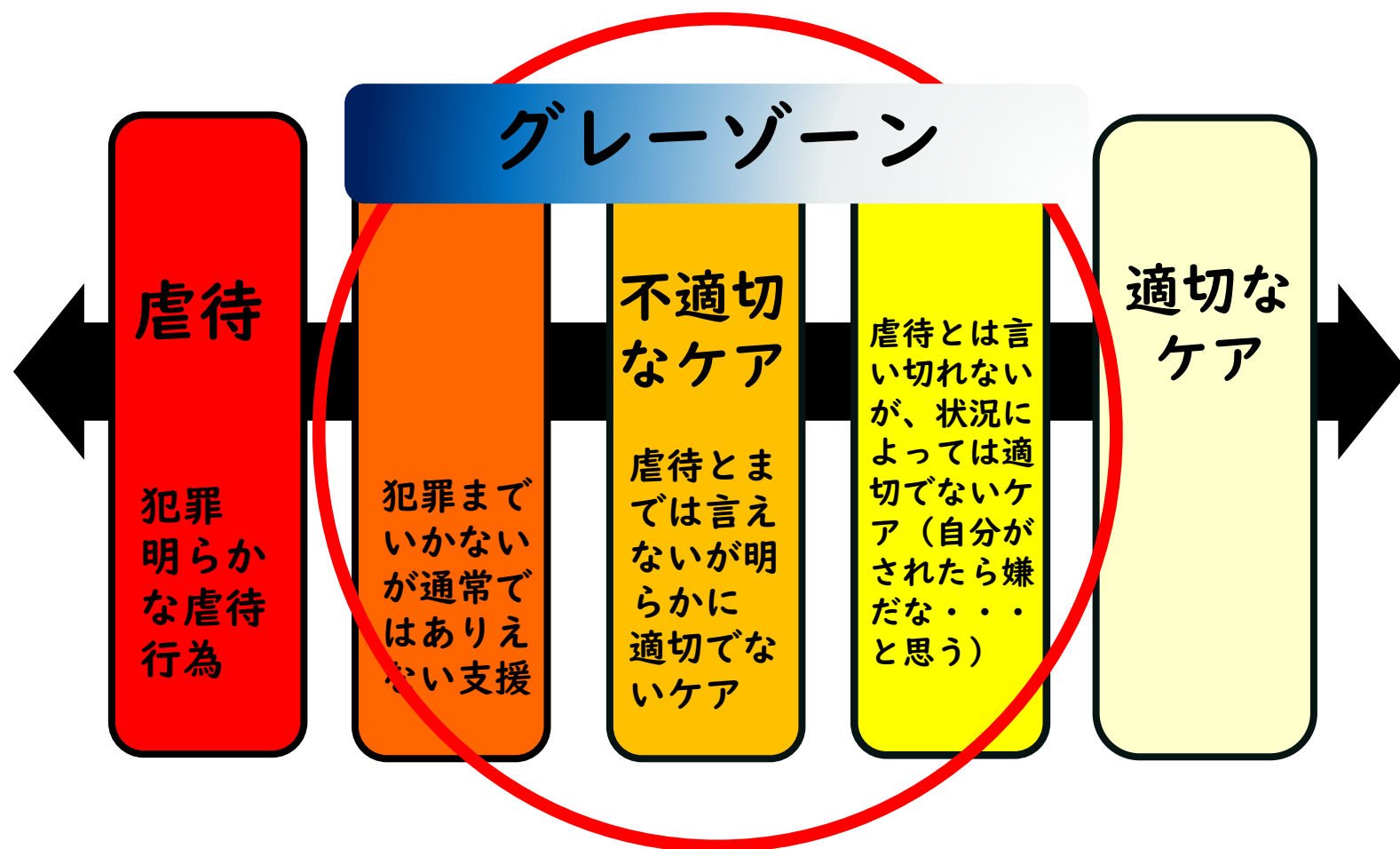
「支援する側」と「支援される側」の関係性において、支援する側は、
いつでもだれでも「虐待の当事者」になり得る、ことを自覚することが大切です

日常の小さな出来事

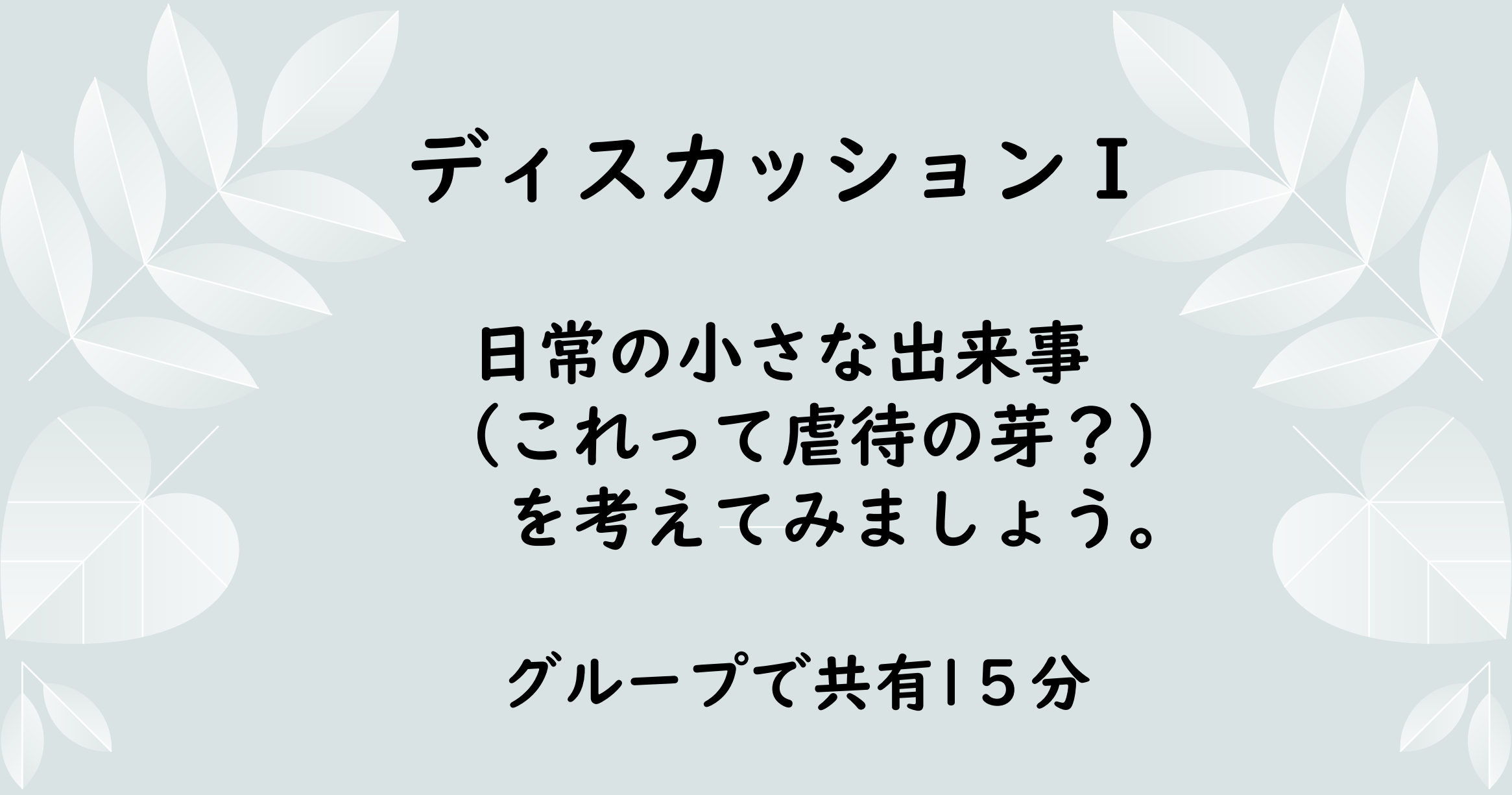
グレイゾーンは日常にある

「小さな出来事」

- ・「グレイゾーン」を「虐待の芽」ととらえることから始めましょう
- ・「グレイゾーン」を見逃さない感性と向き合うシステムが必要



出典：平成30年度埼玉県障害者虐待防止・権利擁護研修障害者の虐待防止・権利擁護について

The background features stylized, light gray leaf patterns in the corners. On the left, there are two clusters of leaves: one with several pointed leaves and another with a single large, rounded leaf. On the right, there are also two clusters: one with several pointed leaves and another with a single large, rounded leaf. The leaves are simple line drawings with some internal vein details.

ディスカッション I

日常の小さな出来事
(これって虐待の芽?)
を考えてみましょう。

グループで共有15分

小さな出来事 とは

子どもの療育に携わる

「小さな出来事」

私たちが思うこと

- ・子どもの移動の際、手を引っ張る
- ・多すぎる声かけ
- ・多すぎる身体介助

不適切なケアの背景

「不適切なケア」が「いけない」ことはみんなわかっている。

なぜ、そうになってしまうのか？を考えることは予防につながる。

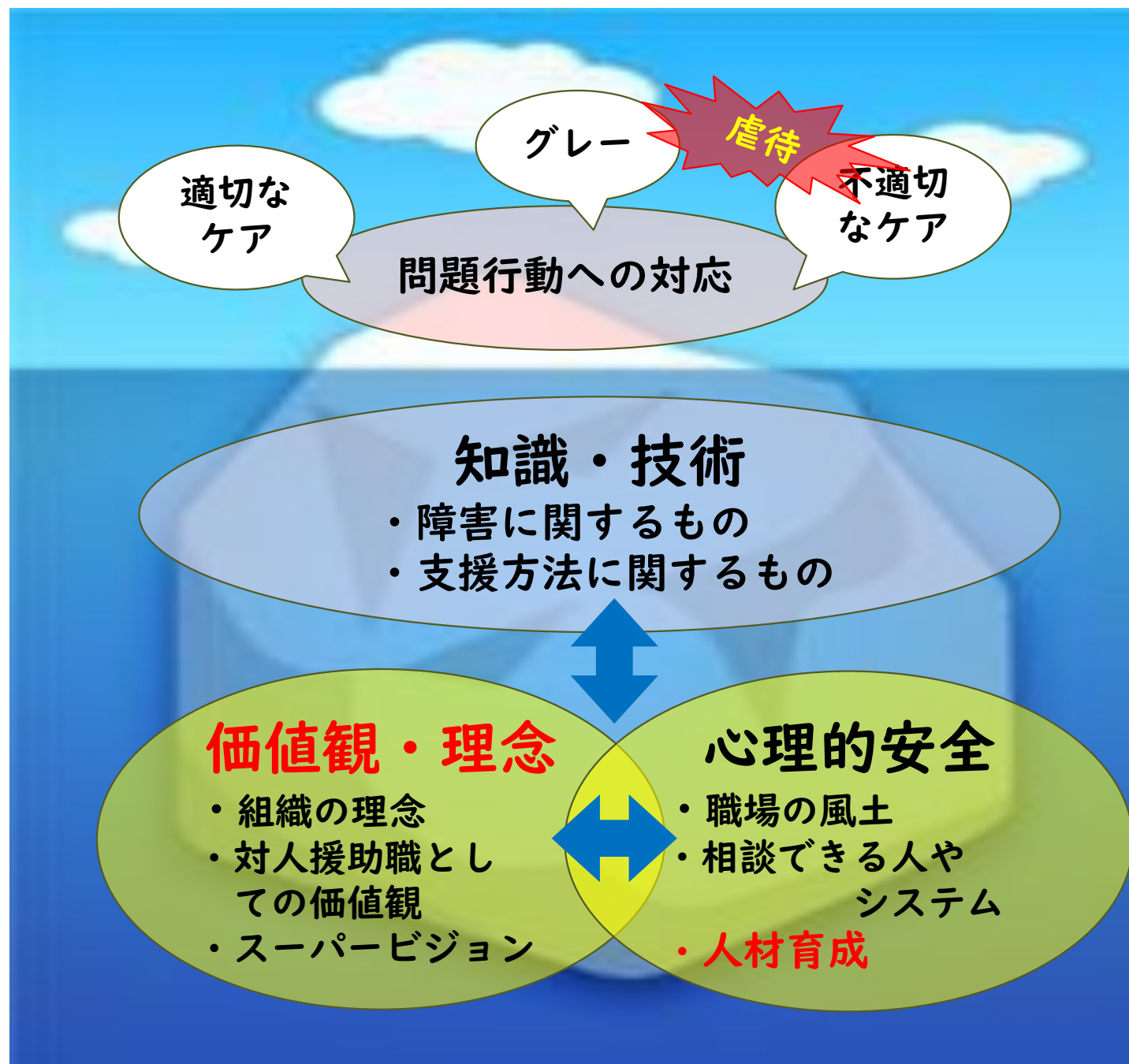
「起こった事実」に対応するだけでなく不適切対応の土台作りが大切。

「自分たちの職場」「自分の価値観」を振りかえることが重要

→ 職場の中で日常的に話せますか？

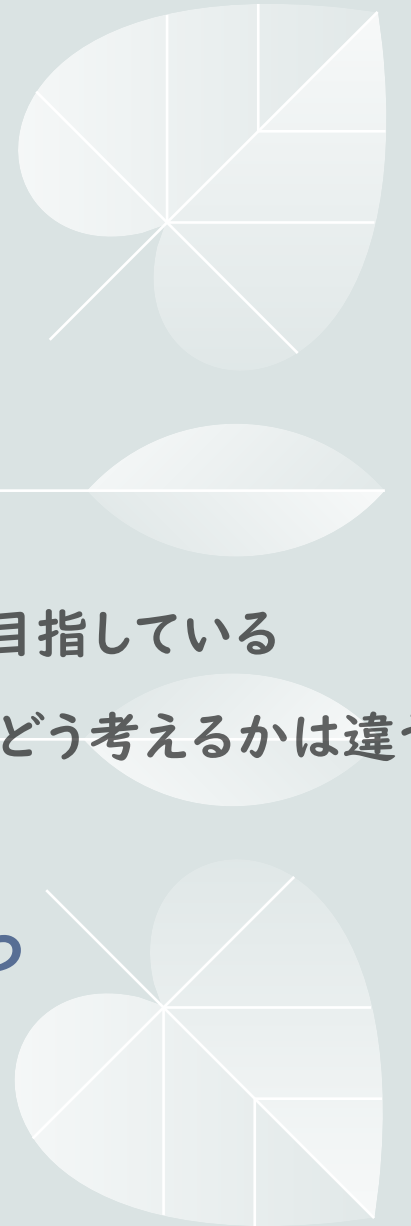
ローカルルールに支配されていないか？

職場の心理的安全は保たれていますか？



「ひとり」のために「みんな」で取り組む

- ・ 対人援助職の仕事は「感情労働」
- ・ 「ひと」に関わることで自身の感情が動く、揺さぶられる
- ・ 相手も自分も「価値」を持った「ひとりの人間」
- ・ 「福祉」の分野では働く私たちは「ひとがより良く生きる(=Well-being)ことを目指している
- ・ 「より良く」とは、どういう状態? → 支援者といえども「その人のより良い状態」をどう考えるかは違う
- ・ 「チームで考える」「システムで考える」
 - ひとりひとりが対人援助職としての価値を持つ
 - 「ひとり」の問題にしない仕組みを整える
 - 障害に対する正しい知識と技術を持つ



「不適切な対応」を予防するために最も重要なこと

—「人材育成」

- ・専門職となっていく過程をどう支えるか
- ・専門職としての価値を持てるようにどう育成するか
 - 「経験」や「学び」を通じて培われていくもの
 - 「環境」の中で育っていくもの
 - 「良い体験」を積むことが大切
- ・管理者個人の力量に依存せず、組織として人材育成のシステムを作る

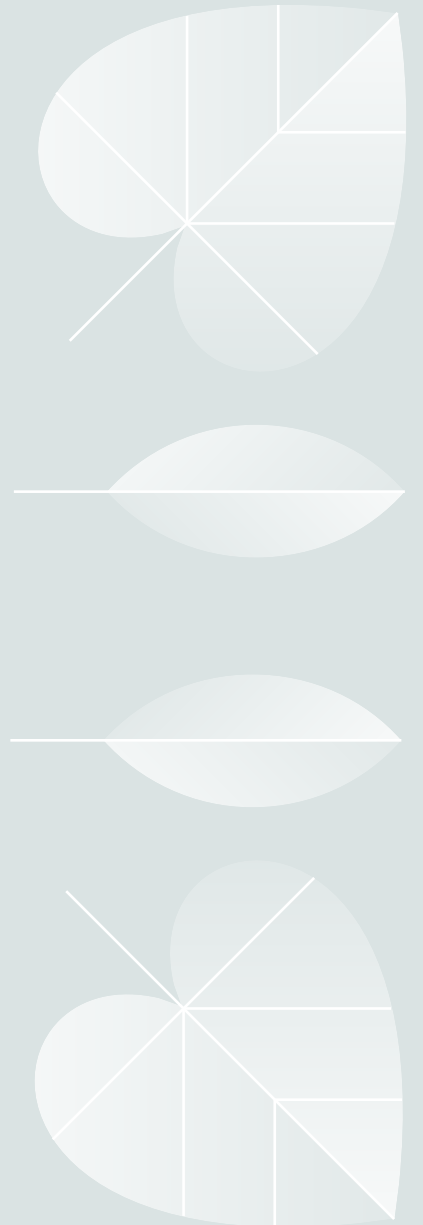


児童発達支援管理責任者とは・・・

障害のある子どもたちが適切な支援を受けられるようにするための中核的な役割を果たしています。彼らの**専門的な知識と経験**は、子どもたちの発達を促進し、家族の支援にも大きく寄与します。

この職種は、児童福祉法に基づいて位置付けられており、**障害児支援の質を確保**するために重要な役割を担っています。

厚労省から抜粋



人材育成としての児童発達支援管理責任者の役割

- 個別支援計画書の作成

職員と支援が
共有できない

- 支援のモニタリング

どんなことで困っ
ていますか？

- 家族支援

保護者との信
頼関係が結べ
ない

？

支援の方法
に行き詰っ
ている

- 職員指導（スーパーハイズ）



障害に間する理解と知識

<基礎知識>

- ・ 発達障害とは・・・
- ・ 様々な障害特性の違い

<定型発達の道筋>

- ・ 遅れと偏り
- ・ 学び方の違い（最近接領域が課題となる）

特性や発達段階が分かれば適切な課題が立てられる。必ずしも家族のニーズには合わない場合もある。

障害に関する支援技術

- 応用行動分析（ABA）
- TEACCH
（構造化・PEPⅢ）
（強度行動障害への対応・冰山モデル）
- SPELL
- 感覚統合
- PECS
- ソーシャルストーリー
- ライフスキル

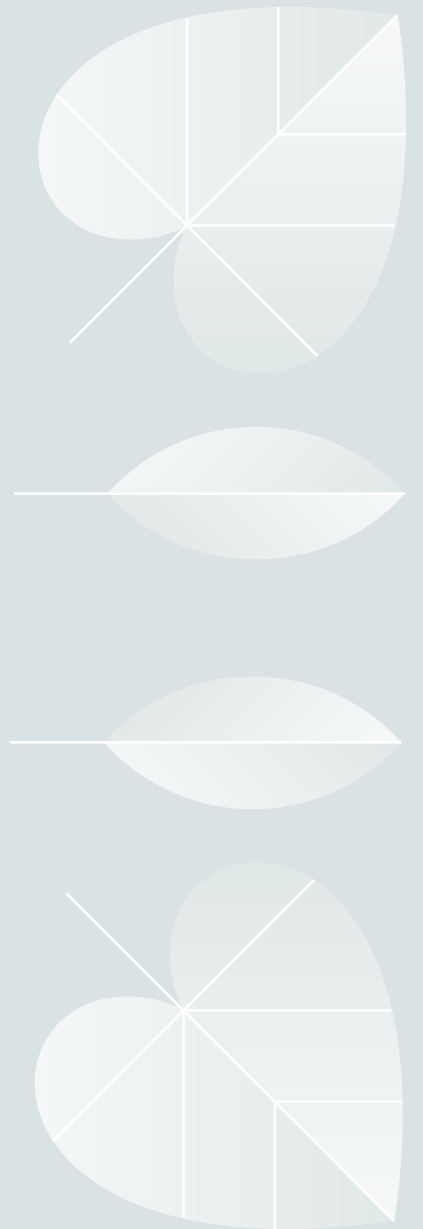
発達障害
の例

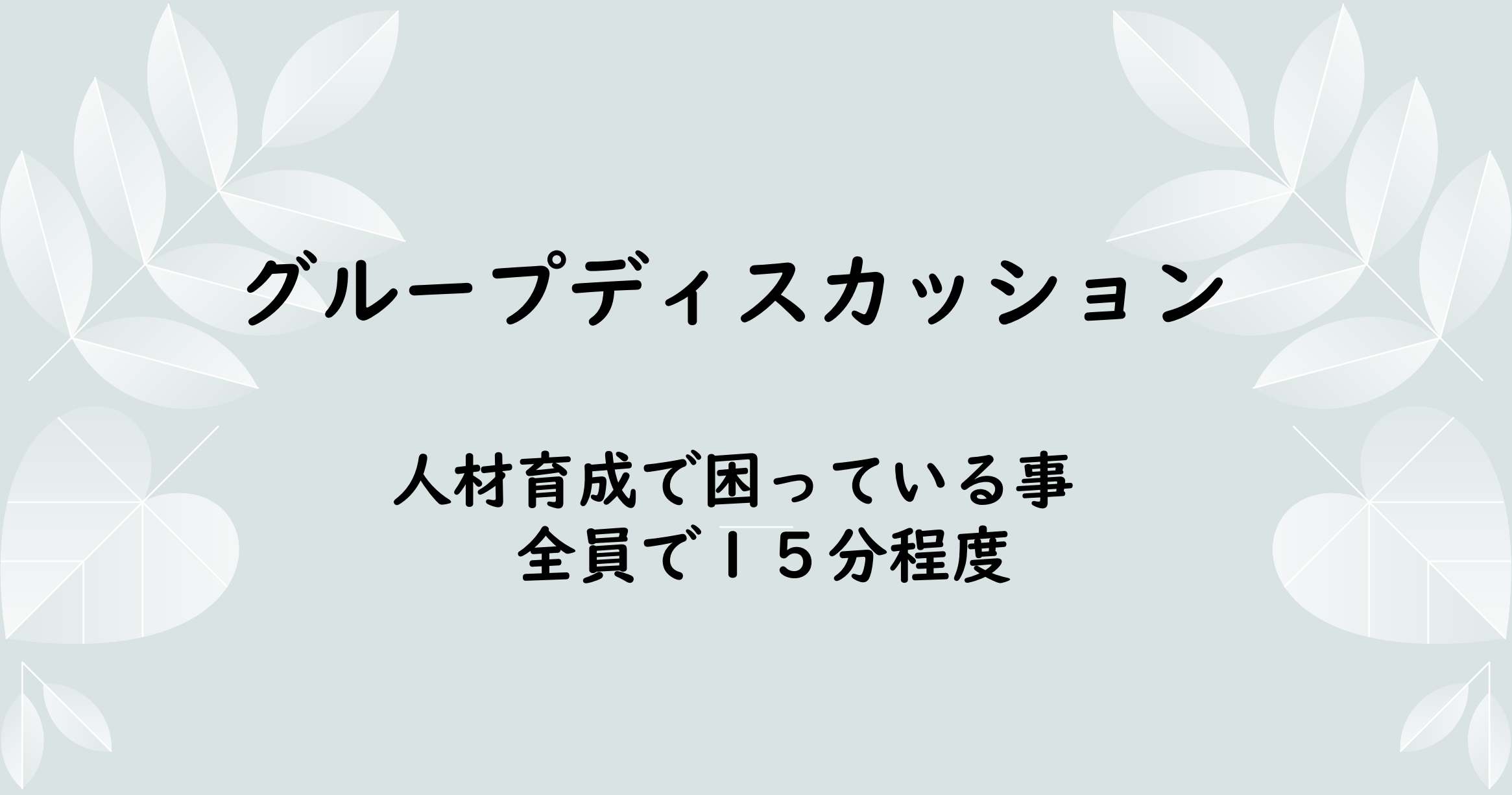
定型発達に近づけるもの
ではない。
その子がその子のままで
その子らしく豊かに暮ら
せるために。

などなど様々な支援方法がある

SPELL イギリス自閉症協会 ASD支援の基本原則

- Structure (構造化) 本人に分かりやすい環境・視覚支援
- Positive (肯定的) 自己肯定感を高める
- Empathy (共感) 特性への共感 違いを認める
- Low arousal (穏やか) 低刺激な環境や声かけ
- Links (つながり) 一貫性のあるサポートをチームで
教育・福祉・家庭・医療との連携



The background features stylized, light gray leaf patterns in the corners. The top-left and top-right corners have clusters of elongated, pointed leaves. The bottom-left and bottom-right corners have larger, more complex leaf shapes with internal vein details. The central text is positioned between these decorative elements.

グループディスカッション

人材育成で困っている事
全員で15分程度

私たちの取り組み

～療育センターの場合～



療育は子どもへの対応よりも 大人の理解が大切

子どもの成長には、発達障害の特性に合わせた関わり方と適切な環境が必要です。
その環境を用意するのは関わる大人です。
子どもよりも関わる大人が学ぶ必要があります。

「子育てを支える療育」 宮田広善

支援者を支援するシステム

- ・カンファランス

(一人一人の個別支援計画の検討)

- ・事例検討会

(支援の経過を振り返り自己研鑽)

- ・基礎研修

(障害・発達・支援方法の基礎知識)

- ・経験年数別研修

(キャリア毎の役割・学会発表)

- ・日々の振り返り

(PDCAサイクルの確認)



定型発達の私達とは異なる思考や感覚、コミュニケーションを持つ子ども達と関わること。



どちらか一方に合わせるのではなく
お互い歩み寄り折り合いをつける支援を。

- ・ それだけ困難を抱える子どもたち
- ・ それだけ丁寧な支援が必要
- ・ それだけ支援の個別性が高い
- ・ だから一人のためにみんなで考える

児発管の働き方とスーパービジョン

- ・初期評価、中期振り返り、終期振り返りカンファランスへのSV

一人一人のアセスメントと支援目標・支援内容 が妥当であるか担当者
と検討。

- ・日々の療育に入り必要な支援のスーパーバイズを行う。(OJT)

客観的な子どものアセスメントと職員対応の妥当性を見る

職員間の療育技術の整合性を図る

- ・困った時に直ぐに相談できる関係を築く

職員が行き詰った時、行き詰る前に相談できる時間や場の確保

一人で抱え込まないチーム支援と役割分担

わたしたちが大切
にしていること

子どもが「できるようになること」を
喜ぶのではなく、
子どもが「幸せになること」を喜ぶような
支援者になりなさい

児童精神科医 佐々木正美

価値の共有～目指す方向性～

＜いつでも、どこでも、だれとでも＞

通園の場所だけ、この時だけ、先生とだけ、ではなく、いつでも、どこでも、誰とでもできるように目標・支援内容を変える。

＜自己肯定感を育てる＞

自分でできた達成感を、こどもが実感するように、自発性・自立性のある目標設定や支援内容を立て自信につなげる。自分ができる感覚や自分の気持ちを尊重されたと思う感覚が自己肯定感を育む。

＜対人・コミュニケーション力を育てる＞

人とコミュニケーションしたいと思う気持ちを育てるために、一人一人がわかりやすい環境づくりと自分から伝えられるための表現力を身につける支援をする。

他の人と注意を共有する・楽しみを共有する経験が対人関係を築く基礎となることを意識し支援方法を考える。

意思決定支援

もう一つの
大切な視点

「権利擁護」と「意思決定支援」は車の両輪

→ 「意思決定支援」が適切に行われる現場では虐待・権利侵害は行われない

意思決定支援は本人の長い人生に寄り添いすすめられる

→ 児童期は本人のこれからの人生で必要とされる意思決定を育む大切な時期

2024.11 緑区自立支援協議会研修会

淑徳大学副学長 鈴木敏彦先生のお話より

子どもから大人へ

発達障害の子どもが大人になったときに「必要な力」とは



小さいときからの経験が「選ぶ」「決める」力に



意思決定を支援

これまでの成功体験から

「自分は何をしたいか」に気づく

意思表示を支援

意思形成を支援

特性にあわせた表出手段の提供

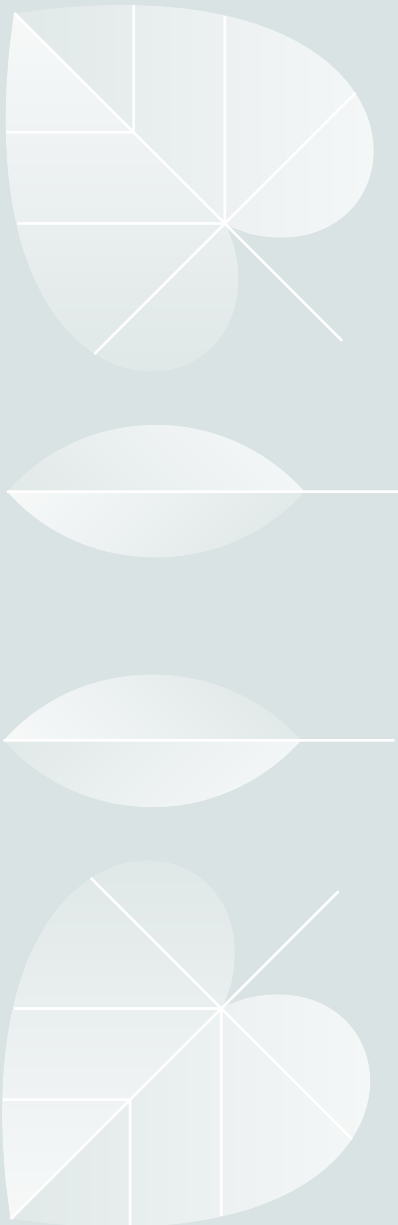


非言語的手段もくみとりながら



個別支援計画書の 作成と人材育成





個別支援計画書とは・・・

作成マニュアルより（就学前の地域療育センター）

個別支援計画書はこどもの現状とそれに伴う特性や
1年後の又は就学までのロングゴールを保護者と共有
するものです。特に総合所見は子どもの特性に加え将
来目指す姿を標題の方向性から抽出し幼児期に必要な
ことを伝えることができます。

支援は評価（アセスメント）から始まる

（１）強みは？

（得意なことを活かす・こだわりを活かす）

（２）興味・関心は？

（好きなことはモチベーションが高い）

（３）障害特性は？

（思考・注意の問題・感覚の特異性）

（４）発達段階は？（わかること・わからないこと
芽生えている部分に支援）

※子どもの良いところ、強みを見つけて支援に活かす
（ストレングス）

どのようにアセスメントするか 領域ごとの視点（抜粋）

領 域	領域に何を書くかを表示する	評価の視点
健康・生活	<健康状況> 基礎疾患、アレルギー、投薬、発作の有無など <食事><排泄><着替え><歯磨き>のスキルを評価する また、どうすればできるかを記入する <生活リズム>睡眠や食事などリズムの現状	自立度/介助レベル
認知・行動	<理解> 遊び方、ものの扱い方、概念理解、状況理解、記憶力わかっていることを記入する <行動> 注意の持続性、注意の転導性（行動・思考）、衝動性、切り替え、移行の困難さ	【遊びの段階】物の扱い・仕組み・模倣・概念理解など興味関心・好きな遊び 【理解の仕方】 見通しの持ち方 思考の特性（こだわり）・強み
人間関係・社会性	集団に安定して参加することや社会行動を獲得するために必要なことを記入する	一人で過ごせるか 集団参加の仕方 社会行動（外での様子）

個別支援計画書 事例



総合的な支援方針（アセスメント）

環境や人に慣れるまで不安を感じやすく、お母さんの存在が安心に繋がっているお子さんです。1日の流れを数回で覚え、食後にお母さんとの分離時間が近づくことが予想できると、リュックを背負って帰ろうとするなど回避行動が見られました。このように記憶する力や、見て理解する力があるお子さんなので、遊戯室の写真や園庭の写真なども見せるとそこに行くことが分かり自ら向かうことができます。

今は目で見て分かる手がかりの意味を一つ一つ覚えて理解できることの幅を広げ、**大人からの働きかけを受け入れる姿勢を身に付けましょう。**関わる大人が分かる指示を出してくれることが分かってくると、安心材料が「お母さんの存在」だけでなく、「分かる指示を出してくれる大人」に広がったり、「分かる指示が出てくる環境」もお子さんの安心に繋がります。

基本的な生活習慣については、動きを引き出す関わり（起動介助）をすると服に腕を通したりズボンを脱いだりしています。何をするのかに気づいてもらうための関わりが今は一つの動きごとに必要ですが、**着替えや歯磨きなどの一連の流れを自立的にできるようになるために、**お子さんが持っている「見て理解する力」を活かして動きを身に付けていきます。何をすべきか気づいて動きが出るために、見て分かりやすい手順書を使っています。

見通しが持てなくなると不安が強くなり泣いてしまうことも多いですが、好きなことや好きな場所で気持ちが切り替わりやすいです。好きなことはお子さんが様々なことを学んでいくために大いに役立ちます。好きなことを見つけて好きなことからお子さんの**興味を広げていきましょう。**

<前期> 目標	支援内容	振り返り
【健康・生活】 【認知・行動】 一定の流れや手順を理解して行動しましょう。 【言語・コミュニケーション】 分かるコミュニケーションを受け人と関わって楽しい経験を増やしましょう 【人間関係・社会性】 一人で遊べる物や時間を作りましょう。 【家族支援】 お子さんの得意なこと、苦手なことなどの特性を知りましょう。	毎回同じ手順やキーワード、視覚的手がかりを使って、基本的な生活習慣や集団活動における行動を積み重ねます。視覚的に見通しを伝えるためにスケジュールなどを使って少し先の予定を伝えて不安を減らします。 〇〇君が分かりやすい見える形でコミュニケーションをとり安心できる環境を整えます。分かりやすい環境下で家族以外の人との関わりを受けて活動したり、好きな物で一定時間過ごせる時間を作ります。 療育の様々な場面で保護者の方と共有します。お子さんの行動から背景を考える視点や特性に合わせた対応の方法を共有します。	達成：一定の流れの理解と視覚認知の強みが活きて、見通しを持って集団活動に参加しています。最も不安だった分離場面も、予定を見て自分から手を振って安定して分離できるようになりました。 達成：手がかりがお母さんから「見て分かる形」に広がったことで担任とも安心して関わる事ができています。不安がない環境下で好きな物にも没頭して過ごす場面が増えました。 お子さんが出来たことや得意なことを見つけ、共有しました。言葉だけでなく、目からの情報も添えることでよりお子さんの理解に繋がることを確認しました。

適切なケアの背景

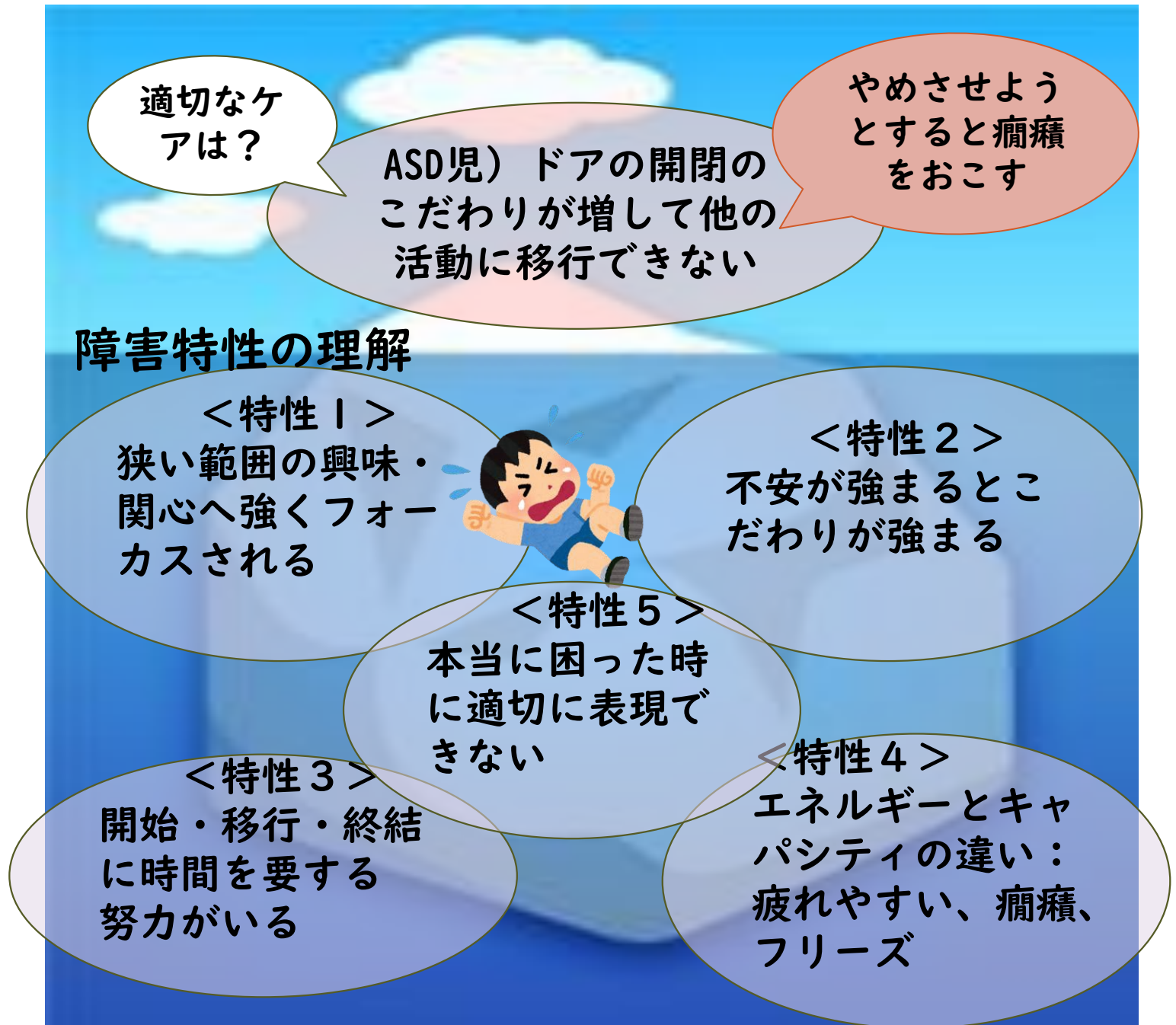
価値の共有

・ニューロダイバーシティ

⇒神経多様性

脳や神経に由来する個人レベルでの様々な特性の違いを多様性と捉えて相互に尊重し、それらの違いを社会の中で活かしていこうとする考え方

(社会学者Judy Singer 1990代)



適切なケアの背景

価値の共有

- ・ダブルエンパシー

⇒二重共感問題

多数派と少数派との間の交流に問題がある時は両者に問題があるとみなす。

(社会学者 Milton 2022)

支援方法の検討

ASD児) ドアの開閉のこだわりが増して他の活動に移行できない

適切なケア

＜こだわりの保障＞
存分にできる環境と時間の確保

＜不安の解消＞
先の見通しがもてるように予定を見える形で示す

＜コミュニケーション＞

本人が自分の感覚や気持ちを尊重されたと思える経験を積んでいく

＜開始・終了の明確化＞
タイムタイマー等分かる形で終わりを示す

＜エネルギーの枯渇＞
好きなことと苦手な活動の配分を考慮

分かりやすい環境 ～分かる安心感～



1人で過ごすスペース



自由遊びの場所



運動遊びの場所



集団活動の場所

フィニッシュボックス

～終わりを見える形に～



できた!

おしまい

やりたくない

コミュニケーションツール
にもなる!

保護者支援の重要性

- 保護者は困難な子育てに直面している
前向きに向き合うために安心の場と相談の場が必要

⇒保護者自身が人に頼る相談力をつけてほしい

- 家族が安定した家庭生活を将来も含め持続できるために

⇒わが子の特性を捉えわが子に合った子育てのコツを得る
子どもも保護者も早期支援で苦労を減らし安心を得る

保護者支援

8割

早期支援の役割

子どもの支援

2割

保護者の障害受容の心理過程

- 障害受容の段階説(ドローター:1975)
[衝撃→否認→悲哀と怒り→適応→再起]
- 慢性悲哀説(オーシャンキー:1966)

障害受容という考え方への批判

- 螺旋モデル(中田洋二郎)
安定と混乱が人生の節目で繰り返し現れる

保護者を理解する時の視点

- 保護者を取り巻く環境について目を向ける
子どもの問題の他に抱えている問題があるか
これまでの支援者や人との関係はどうか
- 障害を受け止めるプロセスから理解する
- 保護者自身のパーソナリティ

信頼関係をつくるために

- 子どもの立場に立って伝える
- 子どもを良い方向に導く具体的な方策をつかんでいるか？

～子どもへの対応が上手な職員は親も信頼します～

- 保護者の主張を否定しない

保護者支援で大切なこと・・・

理解する

保護者の気持ちを
家族の抱える問題を
保護者の価値観を

伝える

子どもの様子を
事業所での工夫を
先生の思いを

共有する

子どもの姿を
共に子育て
していくことを



子どもとの関係をしっかりつくること
共感とコミュニケーションを大切に

支援者も保護者も利用児も安心が自信に

大人が1センチ変われば、子は1メートル変わる

安心は**基礎知識**や土台となる**指針**があること



困った時にすぐに
相談ができること

安心は成長の土台

自信は挑戦のエネルギー

子どもに関わって
上手く
いった**経験**が**自信**
になる

ありがとうございました

